



TITLE:

「花山」といふ名

AUTHOR(S):

CITATION:

「花山」といふ名. 天界 1929, 9(103): 521-521

ISSUE DATE:

1929-09-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/161471>

RIGHT:

研究室」に永く呼んだ木造が一棟だけ花山へ移されて、其のあとへ、去年の末から「理論天文學研究室」といふものが、以前の南館の連続として建てられた。此等を含んで、教室は今、南北兩館、實驗室、分教室、子午儀室等の建物が存立し、總數52の室があつて、第一第二の兩講義室、雜誌室、圖書室、及び二三の觀測室のほかは、多く教官乃至學生たちの居室になつてゐる。花山の方で違つて、此の教室は學生の教育と、理論天文學の研究とが主な目的であるから、觀測としては、學生の實習以外に、大して多くの設備を要しないわけである。しかし、とにかく、折角立派な9メートル・ドームが此の教室には存在するのであるから、之を遊ばせて置くのは惜しく思はれて、こゝに一つ花山へ運ばれなかつたカルゼーの33センチ反射式赤道儀を此のドーム内に据え付けることにした。之れは今から三年前の昔しに歸つたわけである。カルゼーの33センチは今までも中村君によつて種々な方面に使用された通り、なか々々優秀な機械であつて、鏡面の形狀は勿論、赤道儀の自動裝置も實に確實な成績を見せてゐる。故に教室方面に於いて此の望遠鏡をうまく活用すれば、すいぶん立派な觀測成績を挙げ得るに違ひない。

教室には今二つの子午儀室に、總計三個の石の臺が置かれてある。之れに、教室所有のシタインハイル型の子午儀や、其の他一二の小型機が据えられてある。此等は皆専ら學生たちに子午線觀測の練習をなさしめる用に供するものである。しかし此等も立派に使へば、研究的に相當な成績を収めることになるう。

「花山」といふ名

花山は「クッザン」と讀む。又、「カザン」でも宜い。山科の住民の中には「カサン」と呼んでゐる人もある。——一昨年の五月の或る日、此の山を踏査した時、里の人に聞いたら、此の山の名を「カザヤマ」といふ風に發音した。そこでふと思ひついたことであるが、此の山の名は元々「風山」といふ^{かざやま}のでは無かつたらうか？ 其れを、中古の文人たちが詩化し、美化して「花山」と書くやうになつたのでなからうか？ とにかく、「花山」と書きながら、「ハナヤマ」と讀まないで、わざわざ「カザン」と讀ませてるのは、問題とするに足る。